

DRI 調査レポート No.33、2013

平成 25 年 7 月山口島根豪雨 現地調査報告(速報)

2013 年 8 月 9 日現在

概要

2013 年(平成 25 年)7 月 22 日から 8 月 1 日にかけて、日本海から東北地方付近にのびる梅雨前線と、本州に沿って西から流れ込む暖かくしめった空気や上空の寒気の影響で、広い範囲で大気が不安定となり、九州から北海道にかけて局地的に非常に激しい雨が降った。この期間内の 24 時間降水量では、島根県鹿足郡津和野町津和野で 29 日 2 時 50 分までに観測史上 1 位となる 381.0 ミリとなったほか、山形県、石川県、福井県、鳥取県、山口県でも観測史上 1 位を更新した地点があった。また 1 時間降水量では、山口県山口市山口で 28 日 8 時 13 分までに 143.0 ミリ、同県萩市須佐で 28 日 12 時 04 分までに 138.5 ミリ、島根県鹿足郡津和野町津和野で 28 日 4 時 44 分までに

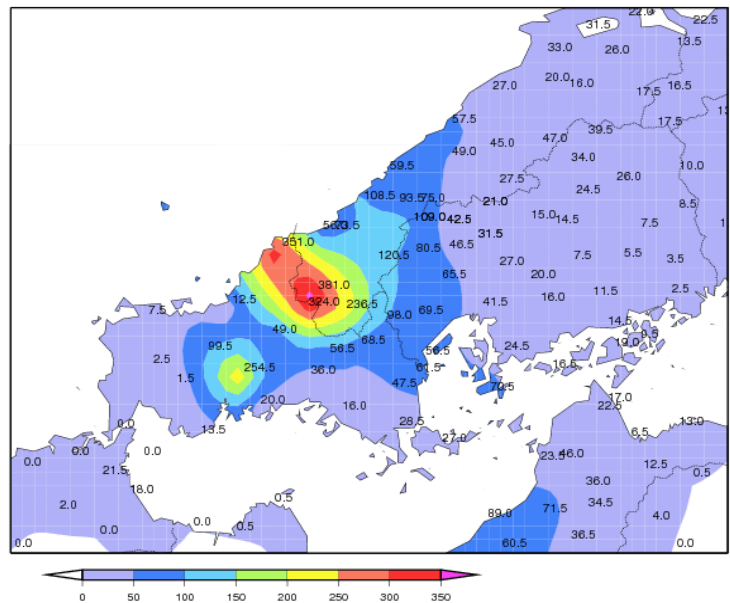


図 1 7 月 28 日の日降水量¹⁾

91.5 ミリの猛烈な雨が降り、観測史上 1 位を更新したほか、西日本から北日本の広い範囲で局地的に非常に激しい雨が降った⁽¹⁾。この大雨により、山口県萩市で 2 名、新潟県長岡市で 1 名の計 3 名が死亡したほか、山口県萩市及び島根県津和野町で計 2 名が行方不明となった。また、中国地方、北陸地方、関東地方、東北地方の各地で計 3,200 棟以上が床上または床下浸水したほか、各地で土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも影響が出た。

なお、気象庁予報部では 11 時 18 分に、「記録的な大雨に関する全般気象情報 第 1 号」で「山口県と島根県では、これまでに経験したことのないような大雨となっているところがあります。この地域の方は最大級の警戒をしてください。」との発表を行った。これは、今年 8 月 30 日から運用が始まる『大雨特別警報』に相当する情報であった。

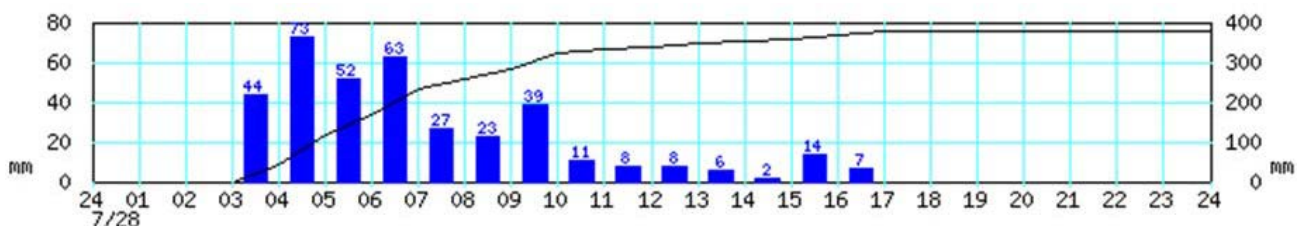


図 2 アメダス時系列 7 月 28 時 0 時～24 時 (津和野)

人と防災未来センターでは、8月6日(火)に宇田川真之研究主幹、渡邊敬逸研究員を被害の甚大な山口県山口市と島根県津和野町に派遣し、災害対応の状況等の調査を行った。

調査概要

- (1)日程：2013年8月6日(金)
- (2)メンバー：宇田川真之研究主幹、渡邊敬逸研究員
- (3)調査先：山口県庁、山口市、島根県津和野町

調査内容

(1) 被害状況

1) 山口県山口市阿東地域

山口市における被害は、阿武川とその支流である松本川の氾濫が発生した市内阿東地域を中心として、人的被害が軽傷2名、家屋被害が全壊9棟（全壊・一部損壊については確認中）床上浸水78棟、床下浸水192棟であった。交通関係の被害では、JR山口線の地福駅と益田駅間で路盤崩落、国道315号の阿徳佐下と県道310号の阿東生雲など数か所で主要路線が不通となっていた。

現地調査を行った阿武川沿いには河川氾濫により押し流された瓦礫、土砂、流木が点在しており、水田やリンゴ園の被害も散見された。徳佐下集落では、ほとんどの家屋が床上約1m程度の浸水にみまわれ、災害ボランティアによる瓦礫撤去作業や家屋からの泥出しを中心とする家屋の清掃作業が行われていた。また、避難所は阿東地域10箇所で開催され、18名の避難者が収容されていた。そのうち最も多くの避難者（12名）を収容する阿東地域交流センター本館での聞き取りによれば、収容者の集落のインフラ復旧や家屋全壊者の生活場所の目途が付き次第、避難所を順次閉鎖していくとのことであった。



写真1 山口市阿東徳佐下鍛冶ヶ原周辺
(河川氾濫による瓦礫が農地へ流入している)



写真2 山口市阿東徳佐下坪の内周辺
(ボランティアによる清掃作業が進められている)

2) 島根県津和野町名賀・高峯地区

津和野町では、津和野川上流域（津和野川本流・名賀川・南谷川）に集中的な被害が見られた。津和野町における被害状況は、人的被害が行方不明者1名・重傷者1名、家屋被害が全壊2棟、床上浸水18棟、床下浸水93棟であった。なお、被災直後、名賀地区、高峰地区、笹山地区が道路の寸断により孤立したものの、7月31日に解消された。ただし、名賀地区の田代集落と徳次集落については、町内中心部から両集落へ至る県道13号が不通であるため、山口市阿東地区経由となっていた。交通関係の被害については、概ね応急復旧が進んでいたが、先述した県道13号のほか、県道1路線が通行止めとなっていた。

現地調査を行った名賀川流域では、本流の氾濫や土砂災害による堤防や路面の崩壊、家屋や農地への被害が連続しており、支流の小河川沿いに小規模な土石流が多発していた。また、山口市阿東同様に床上浸水に見舞われた家屋については、災害ボランティアによる清掃作業が行われていた。避難所は津和野町民センター（22名）と田代・徳次自治会館（4名）に開設されており、家屋の破壊により早急に自宅に戻ることでできない住民については町の公営住宅を紹介しているとのことであった。



写真3 津和野町名賀白井周辺
(河川氾濫および土砂崩れにより路肩が崩壊している)



写真4 津和野町高峰牧ヶ野周辺
(河川氾濫により家屋と路面が大破している)

(2)行政の対応

1) 山口県

山口県庁では、28日11時30分に災害対策本部を設置した。29日には、特別養護老人ホーム阿北苑(萩市)から入居者を県消防防災ヘリ及び他県市ヘリによる搬送を行ったほか、孤立した十種ヶ峰青少年自然の家への物資の搬送が自衛隊ヘリによっておこなわれた。

8月6日の9時から、県庁2階災害対策室にて、第4回災害対策本部会議が開催された²⁾。本部会議では、県民からの問合せに対応する被災者総合相談窓口を県民局に設置したこと、現地被災者総合相談窓口を被災自治体と調整し町役場等にも設置を進めていることが報告され、これまでに県民からの多かった問合せ事項が今後の生活支援関係などであることが情報共有された。また、断水状況や復旧の見通しなど、ライフラインや土木、農業施設などの被害状況及び今後の見通し、観光被害への対応などが報告された。そして、応急的な災害対策はおおむね完了し、二次災害拡大の恐れも小さいとの判断から、災害対策本部会議は第4回会議をもって終了し、これ以降は、災害被害復旧本部を同じ構成員によって設置することが決定された

2) 山口市

山口市では、28日10時に災害対策本部を設置するとともに、阿東全域(対象:6,650人、3,047世帯)に対して河川氾濫と土砂災害の恐れから避難勧告を発令した³⁾。その後、阿東地域に発令されていた避難勧告は地区ごとに解除が進められ、8月6日7時現在では、引き続き868世帯、1,959人に避難勧告が発令されており、阿東地域交流センターなど3箇所の避難所に18名の避難者が残っていた。山口市役所では防災危機管理課向かいの会議室に本部が設置され情報集約整理等の対応が実施されていた。その廊下には災害対策本部会議資料が、報道機関向けに掲示されていた。山口市阿東地域の中心部にある阿東総合支所には、住民向けの相談窓口が設置され、井戸水の水質検査やボランティアセンターの広報とともに、市からの防災無線で放送された広報文面も張り出されていた。



写真5 山口県災害対策本部第4回本部員会議



写真6 山口市阿東総合支所の掲示板

3) 島根県津和野町

津和野町では、4時20分に発表にされた大雨警報（浸水）・洪水警報にともない、町職員が出勤し、雨量等の状況から、町長と協議のうえ6時50分には避難勧告を、町内の16地区、1,859世帯、4,165世帯に発表した。津和野町では同報系防災無線システムはなく、避難勧告は、津和野町営ケーブルテレビ加入全世帯に設置している緊急告知端末により伝達を行った。その後、町では被害情報を集約し、行方不明者の捜索にあたる一方で、孤立集落となった名賀地区などへの対応を行った。要援護者の救出のため、庁内関係部署との情報共有が行われ、食糧等のヘリによる輸送は悪天候により難航したが、島根県や鳥取県など他県からの支援も受けて実施された。

また、孤立集落へ情報を伝達するため、町役場では臨時災害放送局（FM放送）の開設作業を、災害発生当日の28日から開始し、翌29日から早くも放送を開始した⁴⁾。津和野町では以前より、災害発生時のケーブルの断線のリスクを認識し、その応急代替策として、簡易FMラジオ設備と手回しラジオを導入し訓練などを行っていた。本災害に際しては、孤立した名賀地区近傍に設置した送信システムまで、有線でCATV放送局より音声を送り、CATVの告知端末機能がおおむね復旧した8月6日までラジオ放送を行った。放送では、天気予報や、道路やライフラインの被害や復旧見通しなどを繰り返した。



写真7 ケーブルテレビ放送局スタジオ 写真8 孤立集落近くに設置した送信機とアンテナ

(3) ボランティアセンター

1) 山口県山口市

山口市災害ボランティアセンターは阿東地区の入口に位置する長門峡自然休養村センターに7月31日に開設された。運営については、山口市社会福祉協議会を中心に、山口県社会福祉協議会やレスキューストックヤードなどの応援を受けていた。現理事長下でのボランティアセンターの立ち上げは初めてで、事前のボランティアセンター運営訓練も行っていなかったが、県社協からの応援職員が2009年に発生した防府市の豪雨災害を経験していたことや、県社協によりボランティアセンターマニュアルが整備されていたこともあり、スムーズなボランティアセンターの立ち上げにつながったという。

これまでの被災者ニーズは屋内からの家財や瓦礫・泥の運び出し、家財の清掃、家屋周辺の清掃が中心となっており、8月6日現在で約90件の支援要請に対し、約1,500人の災害ボランティアが参加している。ボランティアの募集範囲は山口市及び市に近接する高校生以上としている。作業上の留意点としては、局所的な雷雨が頻発しているため、ボランティアの安全を考え、作業の中止や切り上げを行っていること、また、気温が高い中での作業となるため、熱中症等に気を付けるように促しているとのことであった。加えて、センターと被災地とが離れているため、連絡や安全確認のために、センタースタッフが現地巡回を行っていた。なお、ヒアリングではお盆前をめどにボランティア活動を終了させたいとのことであったが、後日の確認によれば8月10日現在でお盆後のボランティア活動延期が決定している（山口市災害ボランティアセンター情報 URL：<http://d.hatena.ne.jp/y-shakyo/> 8月10日確認）。

2) 島根県津和野町

津和野町においては、津和野町社会福祉協議会が被災地域の調査結果を検討した結果、災害ボランティアセンターを設置せず、7月31日より通常の社協ボランティアセンター業務の範疇で被災者支援活動を開始している。業務運営については町社協職員を中心に、島根県社会福祉協議会や益田社会福祉協議会からの応援派遣を受けている。

個人ボランティアの募集範囲は津和野町及び吉賀町住民とし、その他に県社協主催のボランティアバスにより参加した県民ボランティアの受入れを行っており、今後隣接する益田市社協主催のボランティアバスの受入れも行う予定である。ただし、名賀地区については、孤立が解消されるのが遅く、復旧に時間がかかっていることから、現地にサテライトセンターを置き、県内外からボランティアを募集することを計画していた。(※その後、現状のボランティアで支援要請に対応可能なため、サテライトセンターの設置は中止(しまね社協 HP 8月7日付))。これまで家屋の泥だしなどの支援を中心とする約50の支援要請に対し、約350名のボランティアが参加している。ボランティア作業にあたっては、山口市同様に気温が高い中での作業となるため、熱中症等に気を付けるように促しているとのことであった。なお、通常業務の範疇で被災者支援に対処しているため、特に終了の目途は立てていない。

まとめ

本調査からは、今回の災害の特徴として以下の点が挙げられる。

1. 津和野町では、気象警報にもとづき迅速に職員が参集し、6時50分には避難勧告を発令していた。しかし、気象庁が将来の『特別警報』に相当する「記録的な大雨に関する全般気象情報」を発表したのは11時18分であり、津和野町では降雨のピークが過ぎた後であった。今後の大雨時にも『特別警報』が発表になった時点では、すでに現地では被害が発生している場合もあると想定される。
2. 山口県では、災害対策本部を報道陣に公開するとともに、県民局に加えて市役所等にも相談窓口の設置を進めるなど、県民への情報提供を試みていた。また、悪天候のなか、県境地域などで孤立集落や施設が発生し、複数県市からの迅速な防災ヘリなどの応援の重要性が改めて認識された。
3. 津和野町では、わが国で初めて、水害時の臨時災害局が設置された。町営CATVとの連携や事前の準備によって、災害発災翌日に放送を始めていた。既存のローカルメディアの資源を活用した事例として他地域の参考となると思われるとともに、災害時のみ設置される新設のFM局であることから、周波数や聴取環境の改善策等の周知など、今後の普及の際の留意点も明らかになった。
4. 災害ボランティアの受入れ体制として、山口市は災害ボランティアセンターを開設、津和野町では通常のボランティア業務の範疇で対応しており、どちらも円滑な被災者支援を行っていた。被災者のニーズや、外部からのボランティア参加者数の予想など、被災状況やアクセスの良否など諸状況を冷静かつ迅速に把握し、適切な支援体制を構築する柔軟な判断力の重要性が改めて認識された。

最後に、被災者の方々にお見舞い申し上げ、行方不明の方が発見され、一日も早く復旧・復興が進むことを心からお祈りいたします。また、本調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りて御礼を申し上げて本報告の結びといたします。

参考資料

- (1) 「平成25年7月28日の島根県西部の大雨について」、松江地方気象台、平成25年7月29日
- (2) 「7月28日の大雨に伴う山口県災害対策本部」本部会議資料 第4回、山口県、平成25年8月6日
- (3) 山口市防災情報、山口市、平成25年8月6日
- (4) 大雨による被害状況のとりまとめについて、島根県、平成25年8月6日
- (5) 島根県西部の豪雨に係る島根県鹿足郡津和野町の臨時災害放送局の開設、中国総合通信局、平成25年7月29日

DRI 調査レポート No.33、(2013年8月9日現在)



公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL: 078-262-5060、FAX: 078-262-5082